

おかじま
岡島遺跡

調査の経過 岡島遺跡は、西尾市岡島町及び江原町にかけて位置する。本遺跡は、矢作古川及び広田川などによって形成された沖積低地に立地しており、遺跡及びその周辺は、氾濫や上流からの土砂の堆積、海岸線の変化などによって形成された微高地が点在している。現況は水田として利用されており、この中に果樹園を含む畑地が点在し、自然堤防上の微高地には小規模な集落が形成されている。この沖積平野部を通過する県道蒲郡碧南線に、愛知県土木部によって歩道建設工事が行われることとなった。工事予定地周辺は、昭和52年に西尾市教育委員会、昭和63～平成2年には、本センターが発掘調査を実施しており、過去の調査事例から弥生時代中・後期を主体とした遺跡が大規模に広がる場所であることが確認されている。今回の工事予定地は、過去に確認された遺跡範囲内にあたるため、(財)愛知県埋蔵文化財センターでは、県教育委員会の委託を受け、歩道建設工事に先立つ事前調査として、発掘調査を行うこととなった。発掘調査は平成10年6～9月まで行い、調査面積は1000m²である。

調査の概要 今回の調査区は、江原町東の交差点を中心として、南北及び東西にL字状に設定された。調査区全域は、コンクリート工場の跡地であったため、客土が入れられた上にコンクリート舗装がなされており、一部には工場設備の基礎が遺物包含層以下まで達していた。地表高は、標高約6.3mである。調査区の基本層序は、この客土の下に、近・現代の耕作土があり、その下には近世以前の耕作土及び無遺物の自然堆積層がある。これらの下には、標高3.5～4.0m付近に灰・緑灰色シルトが堆積しており、これらの層において弥生時代中期末葉～古墳時代前葉にかけての遺物、遺構が検出され、この下部の基盤層は緑灰色シルト・細粒砂であった。検出された遺構は、土坑52基、溝18条、不定形土坑8基である。このうち土坑では、土器棺墓の可能性が考えられるもの、溝では方形周溝状にめぐむものなども認められ、時期の前後関係を含めて現在その性格を検討中である。検出された遺物は、弥生時代中期末葉から古墳時代前葉の時期を主体とし、土器は壺、甕片が圧倒的な比率を占め、わずかに出土した石器の中には、石包丁片と思われるものを含む。

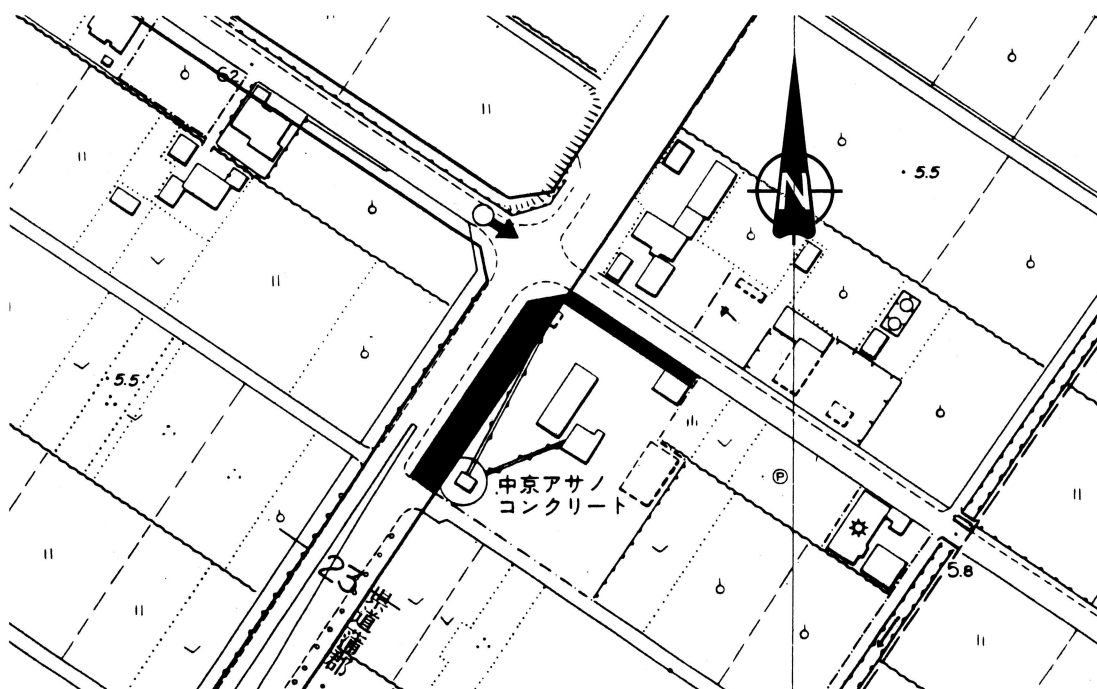
(松田 訓)



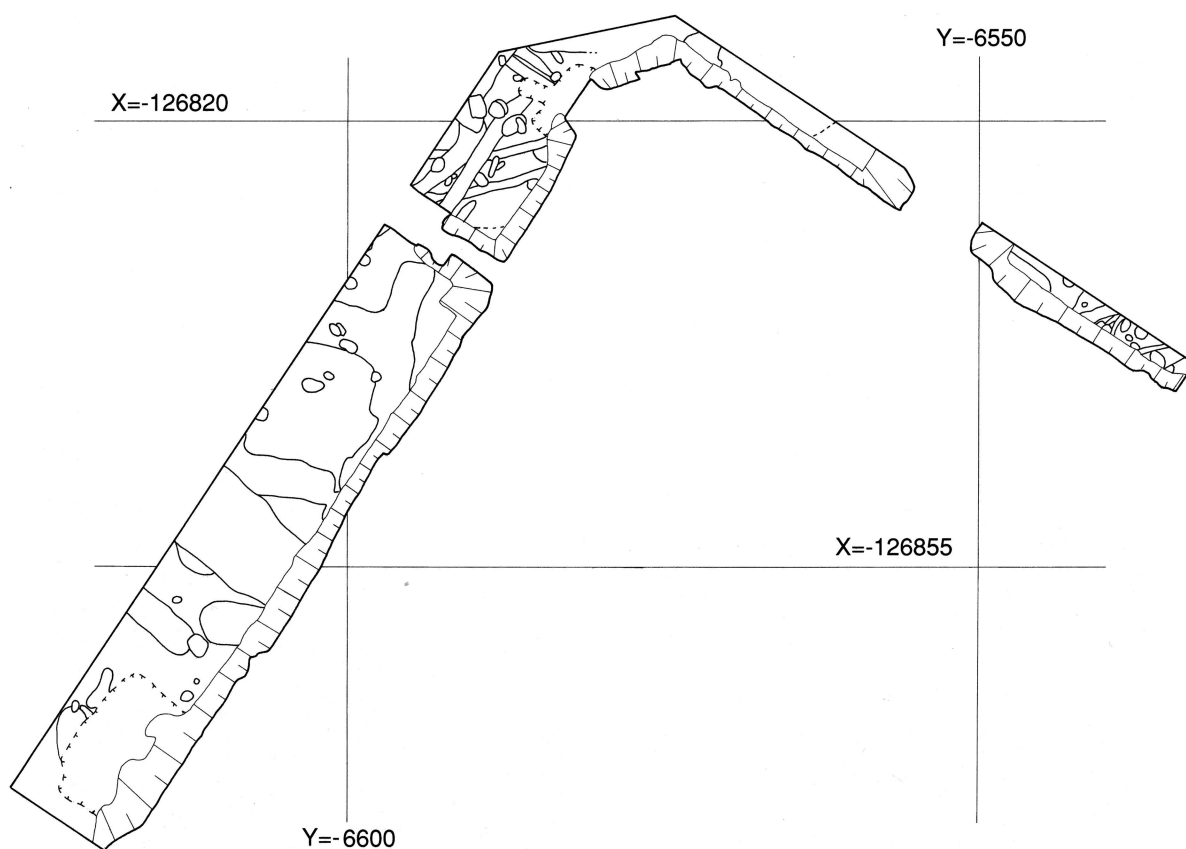
調査区（北東より）



調査区（南西より）



第1図 調査区位置図 (1 : 2,500)



第2図 遺構図 (1 : 600)